

第 1 回検討委員会の確認事項

- (1) 知的障害特別支援学校を取り巻く現状の把握について
知的障害特別支援学校の児童生徒数は増加傾向である。
これまで、県として第 1 次再編計画に基づき平成 23 年に分校を 2 校設置し、一定の効果が見られた。
しかし、少子化の状況の中、再び児童生徒数増加に伴う狭隘化の問題が浮上してきた。
児童生徒数の要因について以下のとおり確認した。
- ① 保護者や関係者等への特別支援教育の理解が進み、特別支援学校の専門的な教育に対するニーズの高まりから、小学部段階など早期からの入学者が増えている。
 - ② 山田特別支援学校の児童生徒数について、高知市からの児童生徒数が増えている。
 - ③ 同様に香南市、香美市の人口が増加傾向にありこの地域からの児童生徒数が増えている。
- (2) 今後の知的障害特別支援学校児童生徒数の推計について
ほぼ横ばいとするのかどうかは議論の余地があるが、山田特別支援学校校区で 40～50 人規模の対応が必要。
- (3) 課題解決に向けた、対応策について
「考えられる対応の方向性(案)」について協議を行い、以下の方向性を確認した。
- A 県中央部の知的障害特別支援学校の受入れ人数拡大(土地の買い増し、増築)
 - B 重複校区の調整
 - C 既存施設を活用した、施設整備
 - D 施設の新築 ※新たな用地の確保が必要
 - E 上記の組み合わせ